

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2021年
9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

日本の宣教

司祭 ヨハネ 芳 我 秀 一



三十五年も前のことです。英国留学中に、かつて日本で伝道した宣教師やその関係者にお会いする機会がありました。

お会いした宣教師の中にジョージ・N・ストロング司祭がおられました。ストロング司祭は戦前、下関や松山の教会で伝道に従事された方で

けて下さったことを心から感謝せずにはおれませんでした。

〈宣教師の思い〉

幕末以来、欧米から多くの宣教師たちが日本に来て福音を伝えて、多くの日本人が洗礼を受け、莫大な経済的支援を受けながら多くの教会が誕生しました。罪に束縛された日本人が道を踏み外して滅びの道を歩まないために、彼らは危険をおかしてイエス・キリストを伝えました。そして、既にキリストの十字架の贖いによって罪が赦されていることを証したのです。

あの悲惨な太平洋戦争の戦時下にあっても、敵国人であるために日本政府によって八月間抑留されましたが帰国するまで日本人に福音を伝え続

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を

得るためである。』
(ヨハネ福音書第三章十六節)
神がこの世を愛されたように、宣教師たちも無条件で分け隔て無く日本と日本人を愛していたのです。

〈宣教師たちの宣教方法〉

そのために、宣教師たちは、日本の文化、宗教、社会的特殊性などをよく調査研究していました。彼らは日本で伝道する上で、日本独自の権威ある存在に気付いていました。それが天皇や皇室の人々でした。しかし、彼らは日本の権威に対して対立するのではなく、むしろ尊敬の念を持って日本の文化や宗教と共に受け入れたのです。なぜなら、神とこの世界は、本来、和解されるべきものと考えていたからです。そして、日本の教会は忍耐強く愛を持って日本人ひとりひとりにキリストを伝えました。初めはキリストや教会に批判的だった人々たちも、教会との交わりの中で神の愛に触れた人たちは、罪が

救され、洗礼を受けて神の子とされました。そして、日本人キリスト者は与えられたキリストの目を通して再び日本を見つめ直すことができ、同胞日本人の救いのために伝道する者に変えられていったのです。

〈日本社会と神の主権〉

このようにして日本の教会は成長し、宣教師たちのように日本独自の権威や文化を尊重しながらキリストの愛と権威の上に堅く立つて伝道してきたのです。なぜなら、神の主権はこの世のいかなる権威よりも遙かに高く、事実、キリストが私たちの前に堅く立っていて下さるからです。

このように日本の教会は、日本と日本人に対する宣教師たちの熱い思いによって基礎が築かれています。彼らの思いを大切にしながら宣教して参りましょう。

徳島イソマヌエル教会牧師・
徳島聖子マテ教会、
富岡キリスト教会、
鳴門聖パウロ教会管理牧師

よきサマリア人募金報告

約半年に渡る募金の結果、七月末の時点で、一八〇万円を超える募金を寄せていただきました。心から感謝いたします。募金については教区報に掲載しただけでしたが、神戸教区内に留まらず日本聖公会の教会・教区・諸団体の方々や、新聞記事によって事故のことを知られた地域の方々、マイラさんと同様の介護士候補生が勤務する施設などからも寄付が寄せられました。

経緯

マイラさんは交通事故により当初昏睡状態で、ご家族の到着を待つて生命維持装置を外すことをご家族と相談することが話題になるほど重篤な状態でした。事故後半月で自



(左から、マイラ姉の妹さんとお母様)

コロナ禍により、ご家族の入国も二ヶ月かかり、救急救命室からの転院が決まりました。病院側も年末年始の緊急事態に備えるため、ベッドを空ける必要もあり転院は休み

に入る直前の十二月二十八日というあわただしいものでした。転院先の病院は、長期療養は可能ですが、その代わり救命処置やリハビリ・積極的医療は行わないという条件での転院受け入れでした。ご家族としても不安はあるものの、通常の病棟であれば三ヶ月ごとに転院を繰り返して、入院時には次の病院の目途が立っていないければ受ける病院は少ないという日本の医療制度の現状に、了承せざるを得ない状況でした。

希望

入院治療を継続するにも一つの病院三ヶ月単位ということでしたが、事故による意識障害の治療に限っては最長三年にわたって治療が可能な病院が全国に数カ所あり、その一つが、転院するにも約一時間程度の距離にある岡山にありました。治療後の帰郷を沖

縄や関東に向けて飛行機で行った実績もあり、基本的な院内での生活は車椅子使用ということもあり、帰国準備には最適です。

課題

転院の許可も出て後は転院を待つだけと思いましたが、最後に大きなハードルがあり、主治医の先生も転院は不可能かもしれないとの事でした。

転院の条件は、マイラさんが現在処方されている鎮痛薬のモルヒネを、他の鎮痛剤に変更することでした。当初現在の病院でもモルヒネを取り扱っていませんでしたので、救急病院でも転院にあたり変更を試みられたのですが、発熱等の症状が出たため使用が継続されたそうです。

現在の病院には脳神経の専門医がおらず、減薬・変更には長期の経過観察も必要なた

め、変更は不可能ということでした。また、大病院のような専門医のいる病院は急性期の患者を専門としており、受け入れは難しいので、小規模のペインクリニックを転院先とするにしても、やはり三ヶ月後の再転院先を事前に準備できなくては受け入れて貰えないかもしれないとの主治医のご説明でした。しかし、最終的にはマイラさんの帰国を目標としますので、来日が叶ったマイラさんのお母さんとも相談し、帰国を可能にするためにも、モルヒネの減量・置き換えは試みていく予定です。

継続的なサポートが必要になりますので、寄せられた募金は長期にわたってのご家族の支援のために、用いさせていただきます。本当にありがとうございました。

マイラ・エステバン姉
支援室室長・司祭 上原信幸

オースチンの まなざし



主教 小林 尚明

「教区宣教委員会」

宣教委員会は、二〇一〇年の教区会で建てられ、私がお世話をお願いしてまいりました。各伝道区からそれぞれ一人委員さんに出ているので、教区の宣教について担当していました。

昨年の教区会終了で、委員が改選され、新しいメンバーで委員会が行われています。オンライン会議で、熱心に教区の宣教の問題点や課題が分かち合われています。そこで出されている問題点を列挙してみます。

教役者の勉強(説教、教区財政)、宣教意欲の不足、信徒が何を求めているか理解していない教役者、教役者と信徒の信頼関係の薄弱さ、また来たいと思えない教会・礼拝の現実、各教会の地域への関わり、各教会の意識の低さと牧師依存体質、などなど。主教として耳の痛いこと、解決することはできません。

が、宣教委員会で解決策を考えながら、進めています。

「ついでな牧会」

どうすれば、ついでな牧会が出来るのか。教役者が一人一人の信徒の皆さんに耳を傾け、その必要、悩みに寄り添うことから始めるべきです。

コロナ禍にあつて、お葬式をするのに教役者、信徒、ご遺族の意思疎通が悪い、という話を聞きます。それぞれの思いを十分聞いて、理解しあうことしか、解決の道はありません。

いのちのことは社から『私の葬式の備え』というB四・二つ折り、表裏の書類が出版されています。生年月日、信仰歴、所属教会などは勿論、その他に、好きな聖句、愛唱歌、好きな花、葬儀場の希望、お花料の扱い、埋葬場所の希望などなどです。こうした書類を教役者、ご本人、ご家族と話し合いながら記入していく、そういう時間を持つことが大切だと思います。私だったら、そのお話の中で、どうして信仰生活に入ったのか、信仰を持っていて一番喜んだのは何か。神様が下さった奇跡とは何か、などお聞きしたいことが沢山あります。そういう時間の共有から、理解しあい、信頼関係が作られていくと思います。

(神戸教区主教)

気候変動問題

日本は災害大国と言われるだけあって、毎年の様に、大きな被害をもたらす様な災害に見舞われています。これまでは、地震、台風、噴火等が主な災害として挙げられていましたが、近年、豪雨災害が多発しています。先頃起きた伊豆山土砂災害も記憶に新しいところですが、今年も災害の多い夏となるのかと憂慮していた矢先、七月中旬にはドイツをはじめ、ベルギーやオランダ、ルクセンブルクの一部で、数日にわたる記録的な豪雨が発生し、壊滅的な洪水をもたらしました。七月末の時点で二〇〇人を超える死者を出したこの集中豪雨は、温暖化による気流の乱れが背景にあるとの指摘もあり、この大洪水を気候変動問題と関連付ける意見も多く、九月のドイツ総選挙の重要な争点となっています。

また、中国河南省でも記録的大雨で洪水が起き、多くの被害を出し、二十万人避難との報道がありました。これは

千年に一度の洪水とも言われています。

実はそれより少し遡って、六月末に千年に一度と言われる熱波に見舞われたカナダでは最高気温四十九・六度を記録し、七月初めには数百人の熱中症による死者を出し、一七〇件以上山火事が報告されました。この異常熱波は、人為的な気候変動の影響なしではほぼ起こり得なかったとする分析を、国際研究チームが発表しています。

気候変動は以前から、廃プラスチック、水問題と共に議論されており、環境保全に対する気運が高まっています。国連では、六月五日を世界環境デーと定めているため、日本では旧環境庁が六月を環境月間とし、全国で様々な行事が行われています。日本聖公会では、六月五日に近い日曜日を地球環境のために祈る日と設定していますし、世界の聖公会でも、宣教の五指標の五番目として、被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力することを掲げています。

二〇一五年九月に国連が採択したSDGsは、同年十二月

に採択された地球温暖化対策としてのパリ協定と共に、世界を大きく変える道しるべとなっています。そこには持続可能な開発目標が掲げられており、十三…気候変動に具体的な対策を、十四…海の豊かさを守ろう、十五…陸の豊かさを守ろう、といった項目が、地球環境を守るための具体的な目標として挙げられています。

そして今の時期は、被造物を大切にする世界祈願日である九月一日から、アッシジの聖フランシスコを記念する十月四日まで、Season of creation(被造物の季節)となっています。これは、被造物を保護するための祈りと行動の月間で、カトリック教会をはじめ、キリスト教諸教派が広く参加するエキシメニカルで国際的な運動です。

自然災害の発生件数・被害者数が増加するにつれ、地球環境を守るために私達にできることは何なのか、世界各地で議論が交わされています。

松山聖アンデレ教会信徒
井原由紀

10月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2021年10月7日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 芳我 秀一

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、
ご出席される方は、事前に教区事務所まで
お問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

*10月の記念逝去教役者

1日	宣教師	キャサリン	シェパード
1日	伝道師	ヨハンナ	三浦すみ枝
5日	伝道師		南岡七重
5日	司祭	ミカエル	津田昌男
7日	司祭		牛島惣太郎
7日	司祭	ノア	チヨウ
8日	司祭	ヨハネ	坂下内匠
9日	執事	オーエン	國弘文吾
9日	宣教師	ヒルダ	ジャクソン
10日	主教	ミカエル	八代斌助
14日	司祭		永野武二郎
14日	司祭	パウロ	河合良隆
14日	執事	アントニオ	嶋田克己
15日	司祭	ハロルド	マクシェリー
16日	主教	ペテロ	松井米太郎
16日	主教	サミュエル	ヘーズレット
17日	伝道師	マルタ	神崎静子
21日	伝道師		三浦光子
21日	司祭	オーガスチン	岡上典夫
24日	司祭	ペテロ	横田久明
28日	宣教師	レオノア	リ一
29日	伝道師	エッサイ	藤本与喜
31日	司祭	ルカ	加藤泰秀
31日	司祭	バルナバ	長門一二三

七月二十五日(日) 祝 洗 礼
 ポーリン 何 静 静
 神戸聖ペテロ教会

七月二十五日(日) 祝 堅 信
 ポーリン 何 静 静
 神戸聖ペテロ教会

七月六日(火) 告 白
 プリスカ 西村 靖子
 神戸昇天教会

鳩だより (敬称略)

七月二十二日(木) ヨハンナ 廣瀬 可子
 神戸聖ミカエル教会

七月二十五日(日) サムエル 塔田 浩
 米子聖ニコラス教会

オンライン神学塾セミナー

神学塾運営委員会ではオンラインセミナーを計画しています。全3回(第2~3回:10月)

《第1回》コロナ禍における教会
「英国におけるパンデミックと教会」

スピーカー 司祭 興賀田光嗣

日時 9月18日(土) 10:00~12:15

内容 講話、グループディスカッション、全体の分かち合い。
*オンライン開催(ZOOM)

参加費 無料

申込先 Eメール又はFAXでお申込み下さい
e-mail: kobeshingakujuku@gmail.com
FAX: 0823-21-5611 (呉信愛教会)

お問い合わせ先 林 和広司祭(上記e-mail)

収穫感謝献金のお願い

《奉献先》神戸昇天教会、松江基督教会
《募金額》180万円

神戸昇天教会は「教会会館屋上屋根およびベストリー壁面の防水工事」、松江基督教会は「玄関、台所や納骨堂の小屋根の簡易塗装劣化に対する瓦棒塗装などの工事」の費用の補助として申請しています。各教会でお届けくださり、教会ごとにまとめて11月23日(火)までに、神戸教区宛に振込送金をお願いします。

教区新型コロナウイルス感染症対策室からのお知らせ

対策室では緊急事態宣言により教会の礼拝を自粛せざるを得なくなった場合などに、その教会の信徒・関係者の皆様に対する礼拝支援として教区のホームページから左記の内容を配信しております。どうぞ、ご利用ください。

- 一. 自宅での祈り(式文)
- 二. 特祷・聖書日課
- 三. 主日の説教動画

(但し緊急事態宣言発出期間内)
(対策室長・司祭 瀬山会治)



〈教区ホームページのURL〉
<https://www.nskk-kobe.org/>